令和7年度　一学期始業式　20250407

〇自己紹介　新2年生、新3年生のみなさん、はじめまして。令和7年度新たに本校に校長として赴任した小谷和之（こやかずゆき）です。
〇わくわくした気持ちでいっぱいである。
〇新年度の気持ちはどうか。いよいよ最上級生の3年生、1年生の手本となる中間学年の2年生。すでに運動部などはエンジンがかかってきているころかと思う。
〇今年は、教室棟が新しくなった。新しいことが始まる予感。

〇胡蝶蘭をいただいた。胡蝶蘭の花言葉は、「幸せが飛んでくる」。お見舞いの時の鉢植えはよくない（根付く＝寝付く）が、幸せなスタートに当たっては、「幸せ」に、いつまでもいてもらいたいのでよい。
〇花は色にも意味を持たせる場合が多い。胡蝶蘭の白、白は清純。黄色は、商売繁盛、紫は優雅、神秘など。清純でありたいと、この年になっても思う。この年だからこそ思うのかもしれない。
〇せっかくなので、花の話を少し。富士宮には桜の名所が多いようである。（個人的なことで申し訳ないが、引っ越ししてきた。）潤井川の桜を歩いて見た。大変感動した。あらためて、浅間神社のこのはなのさくやひめのみこと（木花之佐久夜毘売命）を思い出し、桜との結びつきが多い土地柄を実感した。
〇校長室の机の上に、いただいたピンクのバラがある。ピンクのバラの花言葉は「感謝」。ピンクのバラは、5月の花と言われている。5月まで、きれいに咲いているように大切にしたいと思う。
〇小田貫湿原（おだぬきしつげん）が富士宮市にある。北高から、少し北にあがったところ、一度行ってみたいと思っている。ここは6月頃に一斉に花が咲き始める。ぜひ、行ってみたいと思う。

〇さて、花に詳しいわけではないが、花は、自分の見ごろを知っているわけではない。生態系でいえば、きっと意味をなすこともあるかもしれないが、花は、それぞれが、自分の時期に、自分の色で、自分のために咲いているだけである。

〇私も、あなたたちもそうだと思う。例えば、勉強で華開く、部活動で華開く、地域との連携で華開く、学校行事で華開く、いろいろな華の開き方がある。さらにいえば、学校生活の中で、読書が好きで読書の中に没頭する。一人、音楽の世界に入り込んでいきいきする。そういうことも、自分の時期に、自分の色で咲いているということだと私は思う。自分の時期に、自分の出番で咲けばよい。その自分がいきいきすることが、大切なのだと私は思う。
〇あなたたちは、ひょっとしたら、昨年まで失敗続きだった人がいるかもしれない。悔しいことばかりだった人もいるかもしれない。でも、自分の時期に、自分の色で咲いているからこそ、周りの人は素敵だと気付いてくれるのだと思う。
〇ただし、当然気が付いていると思うが、花は、水をやり、肥料をあたえ、新しい太陽を浴びていないといけない。わたしも、あなたたちも、自分で、自ら水をやり、肥料をあたえ、新しい太陽

を浴びにいかないとだめになってしまう。常に、栄養を与え続けてほしい。

〇二つ目の話は、花の色について話を少ししたので、「色」に関すること。

〇色は、先ほどの清純のように、色のもつイメージがある。暖色系、寒色系、ユニバーサルデザインなど
〇この3月は、アメリカのトランプ大統領が世界の注目を浴びていた。関税を意味するタリフマンを公言し、相互関税という関税を復活させ、一部では、100年前に逆戻りなどと言われている。
〇このトランプ大統領、色は何色か？ 赤色である。
〇昨年の大統領選挙の報道を見ていた人もいたかもしれないが、トランプ赤、バイデン、そのあとを継いだ女性のハリスもともに青でした。アメリカ全土を赤と青に色分けしていましたね。

〇さて、日本は国の政治は、議会制民主主義である。現在の首相、石破首相に直接投票するわけではない。それぞれの地域から代表を選んで、その中から代表が選ばれる。だから、簡単に2色などで表すことはできません。
〇しかし、静岡県知事が昨年変わりました。鈴木知事である。この時、静岡県は、鈴木さんと大村さんという二人が接戦となった。あるテレビでは、西部地区を青で、東部地区を赤で色分けしていました。
〇日本は、国の政治は、色分けできず、地方は色分けできる。なぜ？
〇国と、地方と何が異なるのだろうか。このような政治の体制をとっているのは、世界どこでも同じではありません。アメリカは、国も、地方も今言った色分けできます。イギリスはどちらもできません。
〇なぜだろう。これは、ぜひ、公民や歴史で学んでほしいと思うが、日本はどちらも選挙を伴う民主主義だが、国と地方の制度が違う。世界からみれば珍しい例である。実はこれは、教育にも反映される。

〇教育は、学校の魅力化、特色化という言葉で語られる。
〇特色という言葉を使うが、特色とは、特に目立つという意味で、他と比べて、特に優れているところ、ほかと異なっていることを示すなど、強味に気が付くことではないかと思う。

〇つまり、メンバーや、学校そのものなどの強味、良さ、個性などを集まりとして、それを色として表現する。その色によって、周りに対して印象をつけることができる。
〇さて、富士宮北高校の特色は？
〇ひとりひとり、自分を大事にして、自分を探し、強味を発揮できたらうれしい。それをあつめて、私は富士宮北高校の色を見出したい。

〇本校のゆるキャラは、ハーキンは青、シンコは赤、メイロウは黄色。

〇三つ目はありきたりではあるが、新しい校長として、「縁」について話したい。
〇「セレンディピティ」という言葉を知っている人も多いのではないか。素敵な偶然に出会ったり、予想外のものを発見したりすることに使う。もともとはセレンディップという国の王子たちが旅の途中、次々と意外なものに遭遇し、その賢さによって新たな発見をするという童話から作られた言葉だそうだ。

〇私事であるが、2月の終わりに福島県の大熊町（原発のそば）にいってきた。福島県の大熊町に、「学び舎夢の森」という0歳から15歳まで行くことができる義務教育学校がある。この学校に校長先生であり、園長先生である南郷先生という方がいる。

〇大熊町は、原発のそばにあったために、子どもたちは、山形県に疎開していた。
〇2022 年（令和4年）戻れることになったが、大熊町の地表面は、すべての場所で、30センチ以上、土地の表面を削りとられていた。その土地をみて愕然としたという。

〇この南郷先生、福島県のサッカー日本代表の合宿などで有名なJビレッジにも生徒がいて、その生徒たちが、静岡県の三島長陵高校に通っていた。中には、わたしも愛してやまない清水エスパルスの山原選手などがいる。南郷先生は月に2度、多いときはもっと静岡県に来ていた。
〇そこで出会ったのが、富士市立高校の探究で活躍する生徒たちであった。
〇その出会いや経験から、南郷先生は、今の大熊町の学校は、地域とともに歩むことが何よりも大切で、0歳からこどもが未来を自由に語れる学校をつくっていきたいと学校を運営されている。わたし、あなたを大切にして、自由に、みらいを紡ぎだすという。

〇ところで、この南郷先生たち大熊町の人は、何年、山形県に疎開していただろうか。
〇12年である。12年の間、地域を離れ、それでも忘れずに、「地域」とともにあることが大切だと、気付かせてくれた静岡県のことを思い出していた。

〇他の人から見れば、忘れてしまったり、見過ごしてしまったりすることも、偶然の出会いに、何か可能性を感じ、その小さな種から、新たな取組に結びつけることができる。

〇「縁」と言ったのも、人と人との出会いにも同じようなことが言えるのではないかと思う。今日から皆さんは、新たなクラスメイトや新たな学級担任、教科担任と出会うだろう。それは偶然の出会いである。中には望まない出会いさえあるかもしれない。ただし、その出会いを生かすか殺すかの鍵は、相手にあるのではなく、あなたたち自身の中にある。

〇新年度をスタートするに当たって、そのような気持ちを持って、新たな出会いを大切にしてほしいと思う。わたしもあなたたちとの出会いを一生の宝として大切にする。
〇わたしは、いつも楽しむ（ファン）ことを大事にしている。未来（フューチャー）は、わたしとあなたの楽しさとともにあると思う。

〇令和７年度が今日からはじまる。決意を固めて、決断できる準備をして、新たな年度を楽しんで、自分の色で、自分の花を開いてください。そのことを期待して、令和７年度第一学期の校長訓話とする。